

2021年度後期 大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	日本文学専攻
専攻主任名	胡 秀敏
教務主任名	胡 秀敏

200字以内

今期の総評
研究指導と授業内容に関しては、いずれも高い評価を得ており、総合的な満足度も高い水準を保っている。一方、開設授業科目数への満足度が3点台に留まっているのが課題である。

200字以内

改善のための方策
各項目への満足度をさらに高めるように努力を続けていきたい。授業科目増設への要望は、院生にヒヤリングを実施し、より具体的な要望内容を把握したうえで、カリキュラム編成方針に基づく検討を進めていきたい。

2021年度後期 大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	英米文学専攻
専攻主任名	川畑 由美
教務主任名	金子 弥生

200字以内

今期の総評

「自分の研究テーマの進展具合」以外は、全て評価は4であった。現在、在籍学生が1名であるため、こうした評価になったと思われる。院生研究室は、登校できるようになってからは、定期的に使用し、予習や研究をして過ごす時間も多くなったが今期は、教職科目の履修に追われ、自分の研究は思うように進まなかったようである。

200字以内

改善のための方策

来年度からは、新入生が入学するため、授業にも活気が出て、授業時及び院生研究室での学習時に院生同士でディスカッションをする機会が増えると思われる。こうした意見交換を通して、視野を更に広め、研究に取り組むことを期待したい。中間発表会や、外部講師による講演会を活発に実施することで、新たな知識や研究方法への気づきを促していく。

2021年度後期 大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	言語教育・コミュニケーション専攻
専攻主任名	西川寿美
教務主任名	西川寿美

200字以内

今期の総評
ほとんどの項目で研究科全体の平均を上回る良好な評価を得たが、満足度には個人差が見られる。前期に比べて研究進捗と図書館に関する評価に改善が見られたが、学会・研究会への参加度については自己評価が3点台とやや低いままである。院生室の設備についても文言、言コミ生の評価が他専攻と比べて低いため、人数に応じた充実が図れるよう来年度の課題としたい。

200字以内

改善のための方策
個人差への対応は難しいが、授業を通じて学生とのコミュニケーションを図ることに一層努める。学会、研究会への参加についても教員からの働きかけが有効と考えるため、課題としたい。院生室の設備についても年度末に確認を行い、必要な対応を検討する。

2021年度後期 大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	文学言語学専攻
専攻主任名	横山 紀子
教務主任名	鈴木 博雄

200字以内

今期の総評
<p>回答率は100%（4名回答）であった。大学院に対する総合的な満足度に対する評価は良好である。一方、科目数、コピー機等の設備、院生研究室の有益度、学会参加に関する評価が低めであることに加え、就職支援の充実を求めるコメントは軽視できない事項である。</p>

改善のための方策
<p><改善のための方策></p> <p>科目の数や種類に対する院生の満足度を高めるために、必要な科目の一層の充実を図ることに加え、学外の研究機関、学会・研究会を有効に活用するための情報を院生に積極的に提供する。加えて、院生研究室の有益度を高めるために、院生が希望する備品や環境整備について、具体的な項目をアンケート調査する。</p>

2021年度後期 大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	生活文化研究専攻
専攻主任名	小泉 玲子
教務主任名	野口 朋隆

200字以内

今期の総評
研究活動の充実面については、いずれも高評価であり、カリキュラムの整合性や指導教員とのコミュニケーションが円滑であることが伺えた。その一方で、院生室の環境改善が必要であることも確認することができた。今後も院生の動向を把握し、より充実した研究生生活を送ることが出来るよう配慮して行きたい。

200字以内

改善のための方策
院生室の環境整備のため、不要な備品を直ちに整理し、清掃用具を準備する。その上で、パソコン・プリンターなどの新規導入を検討するなど、研究に集中できるよう配慮する。

2021年度後期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	生活科学研究専攻
専攻主任名	小西香苗
教務主任名	高尾哲也

200字以内

今期の総評
回答者数が4名と少ない中での平均値ではあるが、全専攻平均値より低い項目が多く、総評「総合的に判断して、本学の大学院に満足していますか」との質問の平均値3.5と低い点からも、具体的なカリキュラム・授業内容の改善、丁寧な個別相談や親睦を図ることも検討する必要性を感じる。

200字以内

改善のための方策
特に「学位論文(修士・博士)の作成指導は適切に行われていますか」、「専攻での研究指導が適切になされていますか」については、回答者による評価に差があり、個別対応が必要であると感じる。また、コロナ感染症の影響で指導教員とのコミュニケーションや実験・調査などの研究が進展していないことも考えられた。今後は、学期ごとの個別面談や学年ごとのミーティングなども行い、研究指導の進捗の確認や教員・学生間での親睦なども図りたい。

2021年度後期 大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	心理学専攻
専攻主任名	松野 隆則
教務主任名	村山 憲男

200字以内

今期の総評
<p>コロナ感染拡大のため学期の初めと終わりには授業形態を科目ごとに判断してオンライン授業や対面授業が行われたが、学外実習を含めて大きな混乱はなく、専攻への満足度は概ね良好であった。</p> <p>前期のアンケートでは学会参加等に対する評価が 1.80 と低い回答であったため、後期は院生の学会入会を促す取り組みを行い、2.89 まで向上することができた。また、昨年度の課題であった学内施設の利用は、前期と同様、高い評価が維持されていた。</p>

200字以内

改善のための方策
<p>「研究室の諸活動や学会などに…」に対する評価が前期の 1.80 から今回は 2.89 まで向上したが、依然として全項目中最も低い評価であり、引き続き改善を行っていく必要がある。前期の方策で記載した院生の学会入会を促す取り組みは概ね達成し一定の効果が得られたため、これを継続するとともに、今後は研究室の諸活動の活性化や学会参加などを促していく。ただし、学会参加費や旅費などを院生に負担させることは、課題として残っている。</p>

2021年度後期 大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	福祉社会研究専攻【2年制】
専攻主任名	粕谷 美砂子
教務主任名	鶴田 佳子

200字以内

今期の総評
今年度から本専攻内に社会人向け1年制コースが開設され、2年制の院生にも履修科目選択の幅が広がり、希望に沿った学びの場が提供できたようである。また、修士論文作成にあたり、研究指導が適切になされ、院生研究室も活用されていた。図書館の利用に関して土日や長期休暇中の開館要望があった。

200字以内

改善のための方策
前期FDでの同要望を受け、開館の検討を依頼したが、引き続き、図書館の利用に関して、土曜夜間、日曜、長期休暇中の開館の検討を依頼する。図書館のオンライン機能も含めた文献資料の充実もあわせて図書館へ依頼する。

2021年度後期 大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	環境デザイン研究専攻
専攻主任名	下村久美子
教務主任名	森部康司

200字以内

今期の総評
院生室の利用度も高く、修士研究への取り組み状況や、指導は適切に行われている一方、設備面は比較的低い評価であった。その結果、総合的な判断が低くなっていると考えられる。

200字以内

改善のための方策
大学院控え室の設備については、院生の様子を見ながら、改善していきたい。

2021年度後期 大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	人間教育学専攻
専攻主任名	石井正子
教務主任名	中村徳子

200字以内

今期の総評

回答率100%を達成し、全体的に高評価を得ることができた。とくにカリキュラムや授業に関しては全て平均以上を得ることができた。カリキュラムの充実を図ってきた結果ともいえる。14, 15週に関してはオンライン授業になったものの、ほとんどの授業を対面で遂行できた点もよかったと思われる。ただ印刷機の調子が悪いといった環境面の不備も相変わらず見受けられるので改善する必要がある。

200字以内

改善のための方策

研究室の諸活動や学会などへの参加に関して、また院生自身の研究テーマの進行具合に関しては芳しい結果ではなかった。今後はコロナの状況をみながら積極的に研究活動に従事するよう促していきたい。また早急に印刷機を修理に出すなど環境整備を進めたい。

2021年度後期 大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	生活機構学専攻
専攻主任名	中山 榮子
教務主任名	今城 周造

200字以内

今期の総評
カリキュラム・授業については4以上の評価であり、博士課程の授業や研究指導には全体として問題がないと受け止めた。

200字以内

改善のための方策
生活機構学専攻の院生の専門や研究テーマは幅広く独自であり、専攻として書籍や機器等について院生の個別のニーズに広く応えることは、極めて困難である。各自の専門分野に近い、指導教員や基礎学科・専攻と相談してほしい。院生室のPCやプリンターなど、共通の研究環境については、計画的な整備が可能なので、要望があれば連絡してほしい。 研究指導については、今後とも学生のニーズに合わせて充実させていく。 研究指導のあり方について相談のある人は、専攻主任か教務主任に連絡をとってほしい。

2021年度後期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	福祉社会研究専攻【1年制】
専攻主任名	粕谷 美砂子
教務主任名	鶴田 佳子

200字以内

今期の総評
1年制コース初年度にあたり、授業内容、受講方法、連絡上の事務的なサポート、院生室の利用や設備について、多岐にわたる問題点が社会人院生から指摘された。前期終了時のFDアンケートを受け、改善が図られた点があるものの、履修面、授業運営面においてさらなる改善が求められた。一方で修士論文提出にあたり、積極的に研究を進め、適切な研究指導が行われている点での評価が高かった。

200字以内

改善のための方策
院生室や施設・設備については、関連部署にも協力を依頼し、授業運営、連絡の取り方等については専攻内教員で改善点を話し合い、今後の運営に反映できるよう科目担当教員全体へ改善策の情報共有を図る。また今後、授業以外での活動として修了予定の一期生と在生をつなぐ研究会等、ネットワークを活かす仕組みを検討する。